

### 今号の内容

今号の内容	ページ
◆柳川で暮らそう	2~3
◆結婚サポートセンターへ登録をほか	4~5
◆春の柳川・おもてなしほか	6~7
◆年度末日曜開庁、公共料金改定ほか	8~9
◆忘れていませんか特定健診ほか	10~11
◆柳川駅に自由通路が姿を見せるほか	12~13
◆市民のひろば (14-15)	◆川柳 (15)
◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (16-17)	◆情報わいど (18-23)
◆がんばったね・ぬくもり (24)	◆柳川にこの人あり 白谷明美さん (24)
◆もちふみデビュー (25)	◆保健ガイド (26-27)
◆新市史抄片 (28)	



## かわいい稚児が春を呼ぶ

柳川の春の一大イベント「柳川雛祭り・さげもんめぐり」が、2月11日から始まりました。初日に行われた「おひな様始祭」では、日吉神社で神事が行われた後、お内裏様やお雛様、稚児らが台車と山車に乗り込んで市内をパレード。着飾ったかわいい稚児が沿道の人たちに元気に手を振って、華やかな雰囲気の花を添えました。柳川雛祭り・さげもんめぐりは、4月3日まで催されます。

## 戦国武将の一面、新たに確認された「源氏物語」から

「戦国時代の武将」と聞くと、多くの人は、ドラマや映画でよく目にする「日々合戦に明け暮れた荒々しい男たち」というイメージを持たれているかもしれませんが、その戦国時代の武将が、平安貴族の主人公、光源氏とその子孫の恋愛模様を描いた「源氏物語」を取り寄せ、右筆(書記役)に書き添えていたとしたら、意外に思われる人も多いのではないでしょ



【写真上】「源氏物語」(国文学研究資料館所蔵)【写真左】「同書」奥書 ※画像の2次利用禁止

うか。実は、柳川の戦国武将、蒲池鑑盛(あまもり)が書き寄せた「源氏物語」があることが分かりました。近年、国文学研究資料館(東京都立川市)が購入したものです。ご承知のように「源氏物語」は紫式部の手で、今から1000年も前の平安時代半ばに著された54帖からなる長編小説です。蒲池の書写本は、このうち桐壺の巻など9帖を欠き、また一部本文が欠落し別人の手で補写されています。あるいは、本来は全帖を書写したのかもしれませんが。

棟札に「蒲池近江守源朝臣鑑盛」と見え、天文19年ごろに「武蔵守」と名乗った事実とも合致します。よって史料的には問題ないと言えます。右筆の「以泉」は他の史料では確認できません。というより戦国大名より規模の小さい、いわゆる国人領主の右筆の名が分かるのは大変珍しいことです。ただし、本文を見る限り、決して能筆ではないようです。蒲池鑑盛は、なぜ源氏物語を書き寄せたのでしょうか。享禄年間(1528~1532)ごろに「源氏ブーム」は日本の全土を覆う勢いであった(三田村雅子「記憶の中の源氏物語」との指摘もあり、そのような文化の地方への波及としてとらえる必要もあるようです。その際、この蒲池書写本がどの写本の系統になるか、どこから借りてきて写したのか、その点にも注意しなければなりません。しかし、詳しいことは今後の課題です。ともあれ、鑑盛の息子、鎮並(ちかひら)が龍造寺氏に滅ぼされ、関係の史料もほとんど確認することができない中で、この新たに発見された「源氏物語」は大変貴重なものだとと言えます。

柳川古文書館副館長 田淵義樹

### 編集後記

●我が家に捨て猫がやって来て2年あまり。妻が猫好きということもあり、いつの間にか寝室を出入りするようになった。寝ていると、のどをグルグル鳴らして顔に近づいてくる。妻は安心してよく眠れるというが、自分はホラー映画のワンシーンを連想し、「うっ」とも眠れなくなる。(英二)

●沖端川付近の常盤町で小路の写真を撮っていた。後ろの方で「チャポーン」と音がしたので、水路の魚が跳ねたのうと振り返る。カワセミタ。エサを捕ろうと水に飛び込んだのだ。護岸で獲物を狙う姿を撮ったが、気付け飛び去って行った。くっ、望遠レンズを持っていけば。(賢治)

●数年ぶりのホーリングで2000点超えのチャンスがやってきました。倒すピンは条件は残り2投で6本以上。これまで何度も2000点超えを逃してきた私だが、今回の条件が一番易しい。余裕を持っての1本目、倒したのは1本。気を引き締めての2投目は3本またやってしまった。(和久)

### 人のうごき

平成26年1月末現在

- 人口 70,187人 (前月比 -62)
- 男 33,241人 (-32)
- 女 36,946人 (-30)
- 出生 29人、死亡 94人
- 転入 131人、転出 128人
- 世帯数 24,945世帯 (2)